

# Dark Triad は親密なパートナーに対して暴力を振るうのか？

(Kiire, 2017, PAID)

法政大学大学院人文科学研究科 喜入 暁 (s.kiire0518@gmail.com)

## 0. 本研究の概要

本研究では、社会的に望ましくないパーソナリティとされる Dark Triad が親密なパートナーへの暴力 (IPV) のリスクファクターであるかどうかを検討した。また、Dark Triad → IPV の関連が個人差に関する進化の理論である生活史戦略理論で説明可能かどうかを検討した。分析の結果、Dark Triad の中でもサイコパシーが IPV と正の関連を示し、男性においてこの関連を早い生活史戦略が媒介した。

キーワード: Dark Triad, 生活史戦略理論 (life history theory), 親密なパートナーへの暴力 (intimate partner violence), 配偶者保持行動 (mate retention behavior)

## 1. Dark Triad

社会的に望ましくない 3 パーソナリティ (e.g., Furnham, Richards, & Paulhus, 2013; Jonason, Webster, Schmitt, Li, & Crysel, 2012; Paulhus & Williams, 2002)

低協調性, 他者操作性, 共感性の欠如などの特徴を共通して示し, 各 3 概念の相関も相関が示されることから Dark Triad として扱われている。しかし, 一方で各々に特有の特徴も示され, 各 Dark Triad に特有な側面を明らかにする研究がなされている。

### 1.1. マキャベリアニズム (Machiavellianism: Mach; Christie & Geis, 1970)

- シニカルな世界観 (cynical worldview), 戦術的対人操作性 (tactic manipulation), モラルの軽視
- 計画性

### 1.2. ナルシシズム (Narcissism: Narc; Raskin & Hall, 1979)

- 尊大感 (grandiose), 特権意識 (entitlement), 優越性 (dominance), 自己顕示 (self-presentation)
- 対人関係重視

### 1.3. サイコパシー (Psychopathy: Psych; Hare, 1985)

- 冷淡な感情 (callous affect), 対人操作 (interpersonal manipulation), 不安定ライフスタイル (erratic lifestyle), 反社会行動 (antisocial behavior)
- 衝動性

### 1.4. 攻撃性との関連

- 攻撃性 (Jones & Neria, 2015)
  - マキャベリアニズム: 敵意
  - ナルシシズム: 敵意 (負)
  - サイコパシー: 身体的攻撃

- いじめ (Baughman et al., 2012)
  - － サイコパシー > マキャベリアニズム > ナルシシズム
- パートナーへの言語的攻撃 (Webster et al., 2016)
  - － サイコパシーで顕著

## 2. 親密なパートナーへの暴力 (intimate partner violence: IPV)

ドメスティックバイオレンス (domestic violence: DV), デーティングバイオレンス (dating violence) の包括的な概念。

### 2.1. リスクファクター (Vagi et al., 2013)

- 様々。一貫性は?

Table 1. リスクファクターとその例 (Vagi et al., 2013 を改編)

加害リスクファクターカテゴリ	例
メンタルヘルス	うつ, 不安
攻撃的思考/認知	交際関係での暴力受容
若い時の暴力	ケンカ, 全般的な反社会行動
薬物使用	アルコール, マリファナ
危険を伴う性行動	8年生で性経験あり, セックスパートナーが多い
恋愛/友人関係の質が悪い	敵意的なカップル関係, 反社会的友人との関与
家族の質が悪い	両親の対立, 子どもの頃の身体的虐待
個人の属性	子供の性別, 人種
暴力的なメディア	-

- ⇒ 自己制御の問題?
- ⇒ 進化心理学的視点から統合可能か?
- ⇒ IPV の進化的メカニズムは?

### 2.2. 進化心理学的アプローチと適応問題

ヒトを含む生物は、自身の遺伝子が残る可能性を最大化するような行動パターン、心理メカニズムを形成する。より正確に言えば、そのような行動パターンや心理メカニズムを持つ個体のみが結果的に生き残ってきた。進化心理学は、このような観点から行動パターンや心理メカニズムの構造を明らかにするための1つのアプローチである。

自身の遺伝子を遺す可能性を最大化するためには、対処すべき適応問題がある。適応問題は、様々な状況によって多様であると考えられるが、性別によっても異なる適応問題が発生する。

- 男性：父性不確実性
  - － 生まれてくる子どもが本当に自分の子どもなのかはわからない (Buss, 1996)。
  - － 自分の遺伝子を持たない子どもにエネルギーや資源を投資してしまう恐れがある。

自己制御不全から紐解くダークパーソナリティ——Dark Triad は本当に Triad か？

- さらに、新たにパートナーを探索する時間もなくなる恐れがある。
- →パートナーである女性の浮気やその結果の妊娠を避けなければならない。

□ 女性：保護・リソース供給

- 自分から生まれてくるので母性不確実性はない。
- ただし、子どもを育てるために自分にのみ投資してくれる男性パートナーが必要。
- →パートナーである男性による自分以外への投資を避けなければならない。

⇒ 男女ともパートナーの浮気を防ぐ必要がある。ただし、女性はリソース供給が見込めることが本質であるのに対し、男性では浮気による妊娠そのものが問題となる。そのため、性的な浮気を防止する行動パターンや心理メカニズムは男性でより顕著。

### 2.3. IPV の進化メカニズム

□ 配偶者保持行動 (mate retention behavior)

- パートナーを保持するための行動で、様々な方略がある。
- ソフトな方略：プレゼントを贈る、コミットメントのサインを示す、etc.
- ハード (シビア) な方略：暴力、束縛、etc.

⇒ 現象として、IPV はこの行動の 1 つかもしれない (Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011) <sup>1</sup>。

⇒ 配偶者保持行動としての暴力は最終手段 (Buss & Duntley, 2011)。また、配偶者保持行動だから良い/悪いなどの価値を与えるものではない。

### 3. 個人差への進化心理学的アプローチ

進化心理学的アプローチは、種間に限らず種内の行動パターンや心理メカニズムの差異にも応用される (Buss, 2009)。その中でも、今回は生活史戦略理論に則って考えてみる。

#### 3.1. 生活史戦略理論 (life history strategy: Figueredo et al., 2006; Rushton, 1985)

- 生体エネルギーや資源を生存・繁殖のためにどのように割り当てるかという個人差に関する理論である (Figueredo et al., 2006)。各個体の割り当ての個人差は環境のキューや遺伝的要因によって異なり、これらの戦略は生活史戦略 (life history strategy) といわれる<sup>2</sup>。
- 生活史戦略は 1 次元で表現される。
  - 次元のそれぞれの端は、
  - 遅い生活史戦略 (slow life history strategy: slow LHS)
  - 早い生活史戦略 (fast life history strategy: fast LHS)
- 生活史戦略は様々な状況に関わる。
  - 友人関係、親子関係、恋愛関係、計画性、リスク行動、etc.

<sup>1</sup> ただし、男性でのみ言及される。

<sup>2</sup> ここでの“戦略”とは、目的を持った意図的な行動ではなく、単純な行動パターンを意味する。行動生態学では“ある特定の効果を達成するために取り得る行動のセット”を指す (長谷川・長谷川, 2000, p. 57)。

### 3.2. 遅い生活史戦略

- 資源供給が安定的で、様々な予測しやすい環境において有利な戦略
  - － 長期的な利益を求める。
  - － 他者との協力を重視する。
  - － 繁殖のために、少数の子どもをパートナーと協力して長期的に養育し、確実に成長させるための投資をする (parental effort 重視)。そのため、長期的なパートナー関係の維持が重要。
  - － ヒトは一般的には遅い生活史戦略をとる (Figueredo et al., 2006)。

### 3.3. 早い生活史戦略

- 資源供給が不安定で、予測できない環境において有利な戦略
  - － 短期的な利益を求める。
  - － 自己中心的で他者を出し抜く。
  - － 繁殖のために、短期的な多数の子どもの生殖を重視し、長期的な養育は重視しない (mating effort 重視)。そのため、短期的により多くのパートナーと性関係を持つことが重要。
  - － ヒトの中でも個人差があり、Dark Triad (特にサイコパシー) は早い生活史戦略をとることが示唆されている (Jonason et al., 2010)

## 4. Dark Triad, 生活史戦略は IPV にどのように関連するか?

本研究では、IPV リスクファクターとして Dark Triad をとりあげ、進化的アプローチ (生活史戦略理論の観点) を踏まえて次の点について検討を行う。

### 4.1. Dark Triad と IPV の関連

- Dark Triad の攻撃性から、IPV を行うことが予測される。
- Dark Triad の各側面では IPV との関連が示されている。
  - － ナルシシズム (Ryan et al., 2008)
  - － サイコパシー (Swogger et al., 2007)
- ⇔ Dark Triad としての共通要素・独自要素と IPV の関連についての知見が必要。
  - － マキャベリアニズムは IPV に関連するか?
  - － Dark Triad としての共通要素が IPV に関連するのか?
  - － それとも独自の要素がそれぞれ IPV と関連するのか?

⇒ 仮説 1 : Dark Triad は IPV と正の関連を示す。

### 4.2. 生活史戦略 (と Dark Triad) と IPV の関連

- “交際” の意味を考えてみる。

自己制御不全から紐解くダークパーソナリティ——Dark Triad は本当に Triad か？

- 遅い生活史戦略
  - 養育重視
  - 長期的な関係が必要
- 早い生活史戦略
  - 生殖重視
  - 短期的に性関係を持つことが必要

□ 適応問題への対処を考えてみる。

- 遅い生活史戦略
  - パートナーとの協力, 排他的関係の形成, etc.
  - 単純に性関係ではなく, 長期的な関係維持が必要
- 早い生活史戦略
  - 協力関係よりも, とにかく生殖 (性関係)。
  - むしろ短期的に複数のパートナーと性関係が持てることが必要。

□ 配偶者防衛を考えてみる。

- 遅い生活史戦略
  - 長期的な関係維持を見据えた方略 (ソフトな方略)
  - プレゼントを贈る, コミットメントのサインを示す, etc.
- 早い生活史戦略
  - とにかく現在の父性不確実性をできるだけ低めるための方略
  - 暴力, 束縛, etc. などシビアな方略も使える?

⇒ 仮説 2: 早い生活史戦略ほど IPV を行う (生活史戦略と IPV に負の関連がある: 後述)。

#### 4.3. IPV リスクファクターの統合的理解の可能性

□ IPV のリスクファクターを考えてみる。

- ざっくりまとめると, 精神的不健康, 反社会性, 衝動性 (攻撃性), 恋愛・性的関係 (パートナー関係), 親子関係。
- これらは Dark Triad の特徴 (少なくともサイコパシーと関連)
- さらに, 早い生活史戦略と関連する (Figueredo et al., 2014)
- これまでに明らかにされてきた, リスクファクター → IPV の本質は, 早い生活史戦略による?
- これまでのリスクファクターは早い生活史戦略に集約できるかもしれない (Fig. 1)。

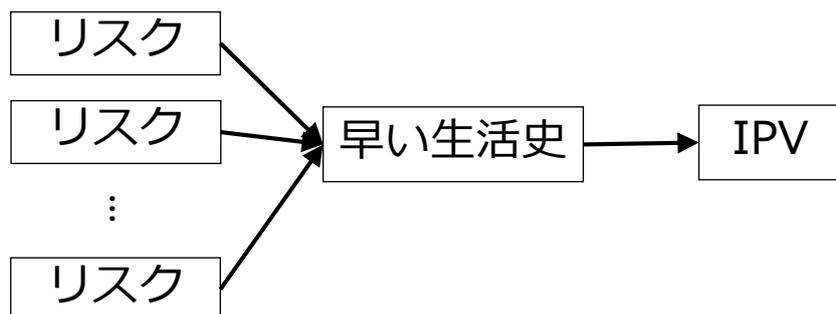


Fig. 1. IPV とそのリスクファクターの関連についてのモデル

⇒ 仮説 3 : リスクファクターである Dark Triad と IPV との関連を生活史戦略が媒介する。

#### 4.4. 性差

- 配偶者保持行動としての IPV は、男性でのみ言及されている (Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011)。
- さらに、Dark Triad, 生活史戦略には性差が示されている。
  - Dark Triad : 男性 > 女性 (Furnham et al., 2013)
  - 生活史戦略 : 男性は早い生活史傾向, 女性は遅い生活史傾向 (Figueredo et al., 2006; Kawamoto, 2015)
- 一方、IPV には男女の双方向性が指摘されている。
  - 大学生対象の国際研究で (Straus, 2008)
  - 10 代対象で (Giordano et al., 2010)

⇒ 女性で明確な仮説を立てられないため、女性については探索的に検討する。

### 5. 本調査

#### 5.1. 仮説

- 仮説 1 : Dark Triad は IPV と正の関連を示す。
- 仮説 2 : 早い生活史戦略ほど IPV を行う (生活史戦略と IPV に負の関連がある)
- 仮説 3 : リスクファクターである Dark Triad と IPV との関連を生活史戦略が媒介する。  
※女性で明確な仮説を立てられないため、女性については探索的に検討する。

#### 5.2. 方法

- 参加者
  - 大学生 467 名が参加。ただし、少なくとも 1 度以上交際経験を持つ 344 名を分析対象とした ( $M_{age} = 19.0, SD = 1.25$ )。分析対象の内訳は次のとおりである。
    - 男性 : 162 名,  $M_{age} = 19.2, SD = 1.43$
    - 女性 : 182 名,  $M_{age} = 18.9, SD = 1.04$

## □ 測定

- Short Dark Triad 日本語版 (SD3-J: 下司他, 2015) : 各 Dark Triad を 9 項目ずつで測定し, 27 項目の総計を Dark Triad 得点 (D3 comp:  $\alpha = .80$ ) とするもの。7 件法, 平均得点。
  - マキャベリアニズム (Mach;  $\alpha = .74$ ) : e.g., 自分の思い通りになるように, 賢く周りの人々を扱いたい
  - ナルシシズム (Narc;  $\alpha = .73$ ) : e.g., 周りの人は私を生まれながらのリーダーだと思っている
  - サイコパシー (Psych;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 私は他人からよく手に負えないと言われる
- Mini-K 日本語版 (Mini-K-J: Kawamoto, 2015) : 生活史戦略 (K-factor) を 20 項目で測定する。得点が高いほど遅い生活史戦略を, 低いほど早い生活史戦略を反映する。本研究では日本の大学生にそぐわないと考えられる 2 項目を除外した<sup>3</sup>。7 件法, 平均得点 ( $\alpha = .80$ )。
  - e.g., 私は何かをするときに, あらかじめ計画を立てる
  - e.g., 私は友達とよく連絡を取ったりする
  - e.g., 私は, 自分が抱えている問題を解決するまで投げ出さない
- IPV 尺度 (喜入・越智, 2015) : IPV の各 7 側面を 3 項目ずつで測定する。7 側面の相関は各々高いため, 総計を一般 IPV 得点 (general IPV:  $\alpha = .85$ ) として扱う。加害・被害経験を測定したが, 本研究では加害経験のみを用いた。5 件法 (まったくない～よくある), 平均得点。
  - 直接暴力 (direct;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 相手の身体を平手で打ったことがある
  - 間接暴力 (indirect;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 机や壁を殴る、蹴るなどして相手を脅かしたことがある
  - 支配・監視 (control;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 一日に何回もメールや電話をしたことがある
  - 言語的暴力 (verbal;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 相手を見下すような言い方をしたことがある
  - 性的暴力 (sexual;  $\alpha = .63$ ) : e.g., いやがっているのに性的な接触をしたことがある
  - 経済的暴力 (economic;  $\alpha = .63$ ) : e.g., お金やものを貢がせたことがある
  - ストーカー (stalking;  $\alpha = .63$ ) : e.g., 無理を言って相手に会いにいったことがある
- その他デモグラフィックデータなど測定。

## □ 手続き

<sup>3</sup> 除外した項目は, 「私は自分の子どもと, 温かく親密な関係を築いている」, 「私は自分の信じる宗教を大事にしているし, 積極的に関わっている」の 2 項目である。

- 授業時間内に一斉に配布し個別に回答し、最後にデモグラフィック情報を回答した。
- 心理統計学、天文学、情報処理、環境変動論の授業にて実施した。

#### □ 分析

- 相関分析：Dark Triad, K-factor, IPV の相関
- 回帰分析：Dark Triad → IPV の検証
- 媒介分析：Dark Triad → K-factor → IPV の検証

※すべての分析は男女ごとに行い、年齢は統制した。

### 5.3. 結果

#### 5.3.1. 記述統計と性差

Table 1. Dark Triad, K-factor, IPV の記述統計と性差。

	Cronbach's $\alpha$	Female				Male				$t^a$	Hedges's $g$
		$M$	( $SD$ )	$min$	$Max$	$M$	( $SD$ )	$min$	$Max$		
Dark Triad Trait Mach	.74	4.72	(0.85)	2.33	6.89	4.75	(0.91)	1.00	6.67	-0.32	-0.03
Narc	.73	3.24	(0.90)	1.44	6.22	3.48	(0.88)	1.33	6.33	-2.54 *	-0.27
Psych	.63	3.27	(0.82)	1.67	6.11	3.41	(0.89)	1.56	6.33	-1.57	-0.17
D3 comp	.80	3.74	(0.66)	2.19	5.85	3.88	(0.62)	1.92	5.44	-2.02 *	-0.22
K-factor	.81	5.03	(0.61)	2.50	6.39	4.73	(0.96)	1.00	6.33	3.49 **	0.39
Perpetration											
Direct	.68	1.10	(0.31)	1.00	3.33	1.16	(0.43)	1.00	3.67	-1.47	-0.16
Indirect	.70	1.19	(0.44)	1.00	4.67	1.23	(0.52)	1.00	4.00	-0.68	-0.07
Control	.59	1.81	(0.83)	1.00	5.00	1.81	(0.79)	1.00	4.67	-0.04	-0.004
Verbal	.61	1.52	(0.62)	1.00	4.00	1.56	(0.69)	1.00	4.00	-0.47	-0.05
Sexual	.78	1.07	(0.23)	1.00	2.33	1.43	(0.75)	1.00	5.00	-5.87 ***	-0.66
Economic	.67	1.60	(0.78)	1.00	5.00	1.28	(0.51)	1.00	4.00	4.50 ***	0.47
Stalking	.63	1.23	(0.43)	1.00	3.00	1.37	(0.57)	1.00	3.67	-2.67 **	-0.29
General IPV	.85	1.36	(0.37)	1.00	3.57	1.41	(0.43)	1.00	3.35	-1.04	-0.11

Note. Mach = Machiavellianism, Narc = narcissism, Psych = psychopathy, D3 comp = dark triad composite.  
<sup>a</sup>Welch's t-tests (two-tailed).

#### □ Dark Triad の性差

- ナルシシズム, Dark Triad で男性 > 女性：先行研究と一致 (Furnham et al., 2013)
- マキャベリアニズム, サイコパシーで性差なし：先行研究と不一致

#### □ K-factor の性差

- 女性 > 男性 (男性に比べて女性は遅い生活史戦略)

#### □ IPV の性差

- 一般的に性差なし：先行研究と一致 (Straus, 2008)
- 性的暴力, ストーキングで男性 > 女性：進化の観点から何か言えそうだが、今回は割愛。
- 経済的暴力で女性 > 男性：進化の観点から何か言えそうだが、今回は割愛。

### 5.3.2. 相関分析

Table 2. Dark Triad, K-factor, IPV の男女別相関係数。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1. Mach	-	.32 **	.43 **	.75 **	-.10	.10	.17 *	.23 **	.16 *	.05	.27 **	.17 *	.27 **
2. Narc	.03	-	.44 **	.77 **	.04	.18 *	.23 **	.20 **	.16 *	.06	.25 **	.13 †	.27 **
3. Psych	.20 *	.47 **	-	.79 **	-.24 **	.21 **	.25 **	.23 **	.19 *	.16 *	.28 **	.26 **	.33 **
4. D3 comp	.59 **	.71 **	.80 **	-	-.12	.21 **	.28 **	.28 **	.22 **	.12	.34 **	.24 **	.37 **
5. K-factor	.21 **	.19 *	-.20 *	.10	-	.01	-.07	.11	-.04	-.12	-.20 **	-.13 †	-.08
IPV perpetration													
6. Direct	-.03	.03	.19 *	.09	-.22 **	-	.62 **	.24 **	.48 **	.25 **	.29 **	.31 **	.58 **
7. Indirect	.02	.10	.33 **	.22 **	-.20 *	.63 **	-	.46 **	.70 **	.28 **	.48 **	.44 **	.80 **
8. Control	.07	.06	.14 †	.13	-.05	.32 **	.38 **	-	.38 **	.23 **	.37 **	.43 **	.72 **
9. Verbal	.06	.18 *	.29 **	.25 **	-.10	.45 **	.59 **	.30 **	-	.30 **	.50 **	.30 **	.76 **
10. Sexual	.18 *	.16 *	.37 **	.34 **	-.18 *	.31 **	.34 **	.34 **	.44 **	-	.33 **	.38 **	.47 **
11. Economic	-.01	.14 †	.20 *	.16 *	-.21 **	.37 **	.49 **	.26 **	.41 **	.46 **	-	.49 **	.77 **
12. Stalking	-.03	.12	.26 **	.16 *	-.25 **	.55 **	.48 **	.61 **	.36 **	.50 **	.43 **	-	.67 **
13. General IPV	.07	.16 *	.36 **	.28 **	-.22 **	.67 **	.76 **	.69 **	.71 **	.71 **	.66 **	.79 **	-

Notes. Mach = Machiavellianism, Narc = narcissism, Psych = psychopathy, D3 comp = dark triad composite. 下三角行列は男性, 上三角行列は女性の相関係数。年齢は統制した。

#### □ 男性

- 主にサイコパシーが IPV と関連：先行研究と一致 (Swogger et al., 2007)
- ナルシシズムも関連するが、弱い：先行研究と一致? (Ryan et al., 2008)
- マキャベリアニズムは IPV とほぼ関連しない。
- K-factor が IPV と負の相関
- 仮説は一部支持。

#### □ 女性

- サイコパシーが IPV と関連：先行研究と一致 (Swogger et al., 2007)
- ナルシシズムも IPV と関連：先行研究と一致 (Ryan et al., 2008)
- マキャベリアニズムも IPV と関連。
- K-factor は IPV と関連なし
- 仮説は一部支持。

## 5.3.3. 回帰分析

Table 3. Dark Triad → IPV の多変量重回帰分析結果 (男女別)。

	Machiavellianism				Narcissism				Psychopathy				$R^2$
	95% CI				95% CI				95% CI				
	B	LL	UL	b*	B	LL	UL	b*	B	LL	UL	b*	
Female (N = 182)													
Direct	-0.001	[-0.06, 0.06]	.00	0.04	[-0.02, 0.09]	.11	0.06	[-0.001, 0.12]	.16 <sup>†</sup>	.06 <sup>†</sup>			
Indirect	0.03	[-0.05, 0.11]	.06	0.07	[-0.01, 0.15]	.14 <sup>†</sup>	<b>0.09</b>	<b>[0.001, 0.18]</b>	<b>.17*</b>	.09*			
Control	0.13	[-0.02, 0.29]	.14 <sup>†</sup>	0.09	[-0.06, 0.23]	.10	0.13	[-0.03, 0.30]	.13	.09*			
Verbal	0.06	[-0.05, 0.18]	.09	0.06	[-0.06, 0.17]	.08	0.09	[-0.04, 0.21]	.12	.05			
Sexual	-0.01	[-0.05, 0.04]	-.02	-0.003	[-0.04, 0.04]	-.01	<b>0.05</b>	<b>[0.002, 0.10]</b>	<b>.17*</b>	.05			
Economic	<b>0.14</b>	<b>[0.003, 0.28]</b>	<b>.16*</b>	0.11	[-0.02, 0.24]	.13	0.15	[-0.002, 0.30]	.16 <sup>†</sup>	.12**			
Stalking	0.04	[-0.04, 0.11]	.07	0.01	[-0.07, 0.08]	.01	<b>0.12</b>	<b>[0.03, 0.20]</b>	<b>.23**</b>	.08*			
General IPV <sup>a</sup>	0.06	[-0.01, 0.12]	.13 <sup>†</sup>	0.05	[-0.01, 0.11]	.13	<b>0.10</b>	<b>[0.03, 0.17]</b>	<b>.22**</b>	.14**			
Male (N = 162)													
Direct	-0.04	[-0.11, 0.04]	-.08	-0.04	[-0.13, 0.04]	-.09	<b>0.12</b>	<b>[0.04, 0.20]</b>	<b>.25**</b>	.05			
Indirect	-0.03	[-0.11, 0.06]	-.05	-0.04	[-0.14, 0.05]	-.07	<b>0.22</b>	<b>[0.12, 0.32]</b>	<b>.37***</b>	.13*			
Control	0.04	[-0.10, 0.18]	.05	-0.004	[-0.16, 0.15]	-.01	0.12	[-0.04, 0.27]	.13	.02			
Verbal	0.01	[-0.11, 0.12]	.01	0.04	[-0.09, 0.17]	.05	<b>0.21</b>	<b>[0.08, 0.34]</b>	<b>.27**</b>	.09*			
Sexual	0.09	[-0.03, 0.21]	.11	-0.01	[-0.14, 0.13]	-.01	<b>0.29</b>	<b>[0.15, 0.43]</b>	<b>.35***</b>	.16**			
Economic	-0.03	[-0.11, 0.06]	-.05	0.04	[-0.07, 0.13]	.06	<b>0.10</b>	<b>[0.002, 0.20]</b>	<b>.18*</b>	.06			
Stalking	-0.06	[-0.15, 0.04]	-.09	-0.01	[-0.12, 0.10]	-.02	<b>0.18</b>	<b>[0.07, 0.29]</b>	<b>.28**</b>	.09*			
General IPV <sup>a</sup>	0.00	[-0.07, 0.07]	.00	-0.004	[-0.08, 0.08]	-.01	<b>0.18</b>	<b>[0.10, 0.26]</b>	<b>.36***</b>	.14**			

Notes. b\* = 標準偏回帰係数。有意な効果 ( $p < .05$ ) は太字で示した。参加者の年齢は統制したが、煩雑になるため結果には載せていない。

<sup>a</sup>General IPV は各 IPV の全平均なので、General IPV のみを目的変数とした重回帰分析を行った。

## □ 男性

- 主にサイコパシーが IPV と関連：先行研究と一致 (Swogger et al., 2007)
- ナルシシズム, マキャベリアニズムは関連しない。
- ナルシシズムと IPV の関連 (Ryan et al., 2008) は、サイコパシーとの共通部分によって示されていた可能性が考えられる。
- 仮説は一部支持

## □ 女性

- 男性と同様、主にサイコパシーが関連。ただし、経済的暴力ではマキャベリアニズムが関連する。他者を道具のように使うというマキャベリアニズムの特徴は女性で顕著?
- 仮説は一部支持

### 5.3.4. 媒介分析

Table 3. Dark Triad → K-factor → IPV の媒介分析結果 (男女別 + 統合)。

	Female			Male			Integrate		
	95% CI (5000 bootstraps)			95% CI (5000 bootstraps)			95% CI (5000 bootstraps)		
	<i>b</i>	<i>LL</i>	<i>UL</i>	<i>b</i>	<i>LL</i>	<i>UL</i>	<i>b</i>	<i>LL</i>	<i>UL</i>
Direct effects									
General IPV <-									
Machiavellianism	0.06	[-0.001, 0.12]		0.03	[-0.07, 0.11]		0.04	[-0.02, 0.08]	
Narcissism	0.05	[-0.02, 0.14]		0.03	[-0.11, 0.17]		0.05	[-0.02, 0.11]	
Psychopathy	<b>0.10</b>	[ <b>0.02</b> , <b>0.18</b> ]		<b>0.13</b>	[ <b>0.01</b> , <b>0.27</b> ]		<b>0.12</b>	[ <b>0.05</b> , <b>0.19</b> ]	
K-factor	-0.01	[-0.10, 0.09]		-0.09	[-0.18, 0.004]		<b>-0.07</b>	[ <b>-0.13</b> , <b>-0.01</b> ]	
K-factor <-									
Machiavellianism	-0.02	[-0.13, 0.10]		0.31	[0.09, 0.52]		<b>0.14</b>	[ <b>0.01</b> , <b>0.29</b> ]	
Narcissism	0.13	[0.01, 0.27]		0.43	[0.27, 0.61]		<b>0.22</b>	[ <b>0.11</b> , <b>0.33</b> ]	
Psychopathy	<b>-0.23</b>	[ <b>-0.37</b> , <b>-0.09</b> ]		<b>-0.48</b>	[ <b>-0.68</b> , <b>-0.28</b> ]		<b>-0.36</b>	[ <b>-0.50</b> , <b>-0.23</b> ]	
Indirect effects									
GIPV <- K-factor <-									
Machiavellianism	0.00	[-0.01, 0.01]		<b>-0.03</b>	[ <b>-0.08</b> , <b>-0.002</b> ]		-0.01	[-0.04, 0.00]	
Narcissism	-0.002	[-0.02, 0.01]		-0.04	[-0.08, 0.00]		<b>-0.02</b>	[ <b>-0.03</b> , <b>-0.003</b> ]	
Psychopathy	0.003	[-0.02, 0.03]		<b>0.04</b>	[ <b>0.002</b> , <b>0.09</b> ]		<b>0.03</b>	[ <b>0.003</b> , <b>0.05</b> ]	

Notes. 有意な効果 ( $p < .05$ ) は太字で示した。参加者の年齢は統制したが煩雑になるため結果には載せていない。

#### □ 男性

- サイコパシーが IPV に正の直接・間接効果を示した。
  - 仮説支持
- マキャベリアニズムが IPV に負の間接効果を示した。
  - ただし、重回帰分析ではマキャベリ→IPV の有意な効果は示されていない。
- ※K-factor → IPV のパスが有意ではない
  - サンプルサイズの問題?

#### □ 女性

- サイコパシーが IPV に正の直接効果を示したが、間接効果は示されなかった。
  - 女性の場合 IPV は生活史戦略と無関係?

#### □ 統合

男性で仮説 (IPV への間接効果) が支持されたが、そもそも K-factor から IPV への効果が有意ではない。サンプルサイズ (N = 162) が問題の可能性がある。K-factor → IPV の係数は男女とも負であることからデータを統合し再分析

- サイコパシー→IPV への正の直接・間接効果。
  - 仮説支持
- K-factor → IPV への負の効果
  - やはりサンプルサイズの問題だったのかも。
- ナルシシズム→IPV への負の間接効果

- ただし、重回帰分析ではナルシ→IPV の有意な効果は示されていない。
- ちなみに、マキャベリアニズム→IPV は有意ではなくなった。

#### 5.4. 考察

##### □ 結果のまとめ

- － Dark Triad は IPV と関連する。
  - ただし、全 Dark Triad が関連したのは女性でのみ。
  - サイコパシーは男女とも一貫して IPV と関連。
- － 早い生活史は IPV と関連する。
  - ただし、男性でのみ。
- － サイコパシー→IPV を早い生活史が媒介。
  - ただし、男性でのみ。

##### □ 男性

- － サイコパシーと IPV の関連（相関・回帰・媒介分析）
  - 仮説支持
  - 衝動性や反社会側面などサイコパシーを特徴づける側面が関連？
- － マキャベリアニズム、ナルシニズムは IPV と関連せず（相関・回帰・媒介分析）
  - 仮説不支持
  - サイコパシーとの共通部分が IPV に関連していた？
  - ただし、ゼロ次相関（年齢を統制した偏相関）ですでに関連が示されていない：今後の検討課題。
- － 早い生活史と IPV の関連（相関分析）
  - 仮説支持
  - 配偶者保持行動として IPV が用いられる？（Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011）
- － サイコパシー→IPV を早い生活史が媒介（媒介分析）
  - 仮説支持
  - サイコパシーは早い生活史を反映するパーソナリティ
  - IPV には進化的バックグラウンドが関連する可能性。
  - リスクファクター統合可能性（※ただし、本研究ではリスクファクターとして Dark Triad のみを扱ったため、今後の研究が必要である）

##### □ 女性

- － Dark Triad はすべて IPV と関連（相関分析）
  - 仮説支持
  - Dark Triad の共通部分が IPV と関連する？
  - ただし、特有の関連は主にサイコパシー（回帰分析）
- － 早い生活史は IPV と関連せず（相関・媒介分析）
  - 仮説不支持

- 女性の配偶者保持行動は生活史戦略と関連しない？
- IPV が配偶者保持行動ではない？

#### □ 性差を考える

- サイコパシーは IPV と一貫して関連
  - Dark Triad の中で最もダーク (Rauthmann, 2012) : 衝動性・反社会性など
  - 男女でサイコパシー (パーソナリティ) が基盤となる行動表出に違いはない可能性。
- マキャベリアニズム, ナルシシズム
  - 女性で関連 ⇔ 男性ではほぼ無関連
  - 偏回帰係数 (Dark Triad の他 2 つを統制した場合の効果) ではほぼ無関連
  - サイコパシーとの共通部分が IPV に関連？
- 早い生活史と IPV の関連 : IPV は配偶者保持行動の 1 つ?
  - 男女の適応問題の違い
    - 男性 : 父性不確実性
    - 女性 : リソース供給, 保護
  - 男性の IPV の進化的説明と整合 : 配偶者保持行動としての IPV
  - ⇔ 女性の IPV の進化的説明ができない (Archer, 2013) : IPV は双方向的であるにも関わらず (Straus, 2008)
- サイコパシー → 早い生活史 → IPV の直接・間接効果
  - 男性 : 直接効果はサイコパシーのパーソナリティとしての側面, 間接効果はサイコパシーと IPV の関連が進化的基盤に基づいている可能性を示す。
  - 女性 : サイコパシーから IPV への直接効果のみ。サイコパシーのパーソナリティとしての側面が IPV に関連するが, 進化的基盤に基づくものではない可能性を示す。

#### □ 研究の問題点

- リスクファクターの統合 : Dark Triad と IPV の関連をもってすべてのリスクファクターに知見を拡張することはできない。
- 遺伝的要因 : 扱っていないため言及できない。実際に遺伝的要因が示されている (Vernon et al., 2008; Figueredo et al., 2006; Barnes et al., 2013)
- IPV の進化的基盤 : 男性は暫定的に説明がつくが, 女性では説明がつかない。
- 諸要因の統制 : SES, 認知能力, etc. は統制されていない。また, 社会的望ましさや自己評価バイアスも統制していない。
- Mini-K-J から大学生に当てはまらないと考えられる 2 項目を除外している。
- カップル間でどのようなダイナミクスが IPV に関連するかわからない。

## 6. 知見のまとめ

- サイコパシーは IPV と関連する。
- 男性ではこの関連を早い生活史戦略が媒介する。

- 男性：進化的説明が暫定可能
- 女性：進化的説明が暫定不可能

## 引用文献

- Archer, J. (2013). Can evolutionary principles explain patterns of family violence? *Psychological bulletin*, *139*, 403-440. doi:10.1037/a0029114
- Barnes, J. C., TenEyck, M., Boutwell, B. B., & Beaver, K. M. (2013). Indicators of domestic/intimate partner violence are structured by genetic and nonshared environmental influences. *Journal of psychiatric research*, *47*, 371-376. doi: 10.1016/j.jpsychires.2012.10.016
- Baughman, H. M., Dearing, S., Giammarco, E., & Vernon, P. A. (2012). Relationships between bullying behaviours and the Dark Triad: A study with adults. *Personality and Individual Differences*, *52*, 571-575. doi:10.1016/j.paid.2011.11.020
- Buss, D. M. (2009). How can evolutionary psychology successfully explain personality and individual differences? *Perspectives on Psychological Science*, *4*, 359-366. doi: 10.1111/j.1745-6924.2009.01138.x
- Buss, D. M., & Duntley, J. D. (2011). The evolution of intimate partner violence. *Aggression and Violent Behavior*, *16*, 411-419. doi: 10.1016/j.avb.2011.04.015
- Christie, R., & Geis, F. L. (1970). *Studies in Machiavellianism*. New York: Academic Press.
- Figueredo, A. J., Vásquez, G., Brumbach, B. H., Schneider, S. M., Sefcek, J. A., Tal, I. R., ... & Jacobs, W. J. (2006). Consilience and life history theory: From genes to brain to reproductive strategy. *Developmental Review*, *26*, 243-275. doi:10.1016/j.dr.2006.02.002
- Furnham, A., Richards, S. C., & Paulhus, D. L. (2013). The Dark Triad of personality: A 10 year review. *Social and Personality Psychology Compass*, *7*, 199-216. doi: 10.1111/spc3.12018
- Giordano, P. C., Soto, D. A., Manning, W. D., & Longmore, M. A. (2010). The characteristics of romantic relationships associated with teen dating violence. *Social Science Research*, *39*, 863-874. doi:10.1016/j.ssresearch.2010.03.009
- Hare, R. D. (1985). Comparison of procedures for the assessment of psychopathy. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, *53*, 7-16. doi: 10.1037/0022-006X.53.1.7
- 長谷川寿一・長谷川真理子 (2000). 進化と人間行動. 東京大学出版会
- Jonason, P. K., Koenig, B. L., & Tost, J. (2010). Living a fast life: The dark triad and life history theory. *Human Nature*, *21*, 428-442. doi: 10.1007/s12110-010-9102-4
- Jones, D. N., & Neria, A. L. (2015). The Dark Triad and dispositional aggression. *Personality and Individual Differences*, *86*, 360-364. doi:10.1016/j.paid.2015.06.021
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the Short Dark Triad (SD3): A brief measure of dark personality traits. *Assessment*, *21*, 28-41. doi: 10.1177/1073191113514105
- Kawamoto, T. (2015). The translation and validation of the Mini-K scale in Japanese. *Japanese Psychological Research*, *57*, 254-267. doi: 10.1111/jpr.12083
- Kiire, S. (2017). Psychopathy rather than Machiavellianism or narcissism facilitates intimate partner violence via fast life strategy. *Personality and Individual Differences*, *104*, 401-406. doi: 10.1016/j.paid.2016.08.043
- 喜入暁・越智啓太 (2015). 包括的なデートバイオレンス・ハラスメント尺度の開発 日本社会心理学会第 56 回大会発表論文集, 186.
- Ohnishi, M., Nakao, R., Shibayama, S., Matsuyama, Y., Oishi, K., & Miyahara, H. (2011). Knowledge, experience, and potential risks of dating violence among Japanese university students: a cross-sectional study. *BMC Public Health*, *11*, 339-346. doi: 10.1186/1471-2458-11-339
- Paulhus, D. L. & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, *36*, 556-563. doi:10.1016/S0092-6566(02)00505-6
- Raskin, R. N., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports*, *45*, 590-590. doi: 10.2466/pr0.1979.45.2.590
- Rauthmann, J. F. (2012). The Dark Triad and interpersonal perception: Similarities and differences in the social consequences of narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Social Psychological and Personality Science*, *3*, 487-496. doi: 10.1177/1948550611427608
- Rushton, J. P. (1985). Differential K theory: The sociobiology of individual and group differences. *Personality and Individual Differences*, *6*, 441-452. doi:10.1016/0191-8869(85)90137-0
- Ryan, K. M., Weikel, K., & Sprechini, G. (2008). Gender differences in narcissism and courtship violence in dating couples. *Sex Roles*, *58*, 802-813. doi:10.1007/s11199-008-9403-9
- 下司忠大・橋本泰央・小塩真司 (2015). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の更なる妥当性検証——対人円環, Big Five との関連を通して—— 日本心理学会第 79 回大会発表論文集, 53.
- Straus, M. A. (2008). Dominance and symmetry in partner violence by male and female university students in 32 nations. *Children and Youth Services Review*, *30*, 252-275. doi: 10.1016/j.childyouth.2007.10.004
- Swogger, M. T., Walsh, Z., & Kosson, D. S. (2007). Domestic violence and psychopathic traits: Distinguishing the antisocial batterer from other antisocial offenders. *Aggressive Behavior*, *33*, 1-8. doi: 10.1002/ab.20185
- Vagi, K. J., Rothman, E. F., Latzman, N. E., Tharp, A. T., Hall, D. M., & Breiding, M. J. (2013). Beyond correlates: A review of risk and protective factors for adolescent dating violence perpetration. *Journal of Youth and Adolescence*, *42*, 633-649. doi: 10.1007/s10964-013-9907-7
- Vernon, P. A., Villani, V. C., Vickers, L. C., & Harris, J. A. (2008). A behavioral genetic investigation of the Dark Triad and the Big 5. *Personality and Individual Differences*, *44*, 445-452. doi:10.1016/j.paid.2007.09.007
- Webster, G. D., Gesselman, A. N., Crysel, L. C., Brunell, A. B., Jonason, P. K., Hadden, B. W., & Smith, C. V. (2016). An actor-partner interdependence model of the Dark Triad and aggression in couples: Relationship duration moderates the link between psychopathy and argumentativeness. *Personality and Individual Differences*, *101*, 196-207. doi:10.1016/j.paid.2016.05.065